

知っていますか？子どもたちの病気・不健康が増加しています

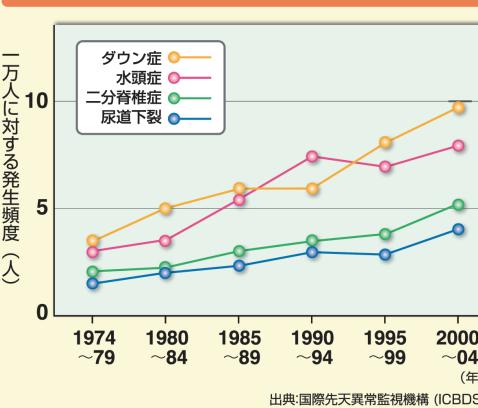
○子どもがとりわけ化学物質などの環境汚染に傷つきやすいものであるということは、まぎれない事実です。

○さらに今、子どもたちの間で心身の異常が年々増加していることが報告されています。

わが国における児童等のぜん息被患率の推移



わが国における先天異常発生頻度の推移



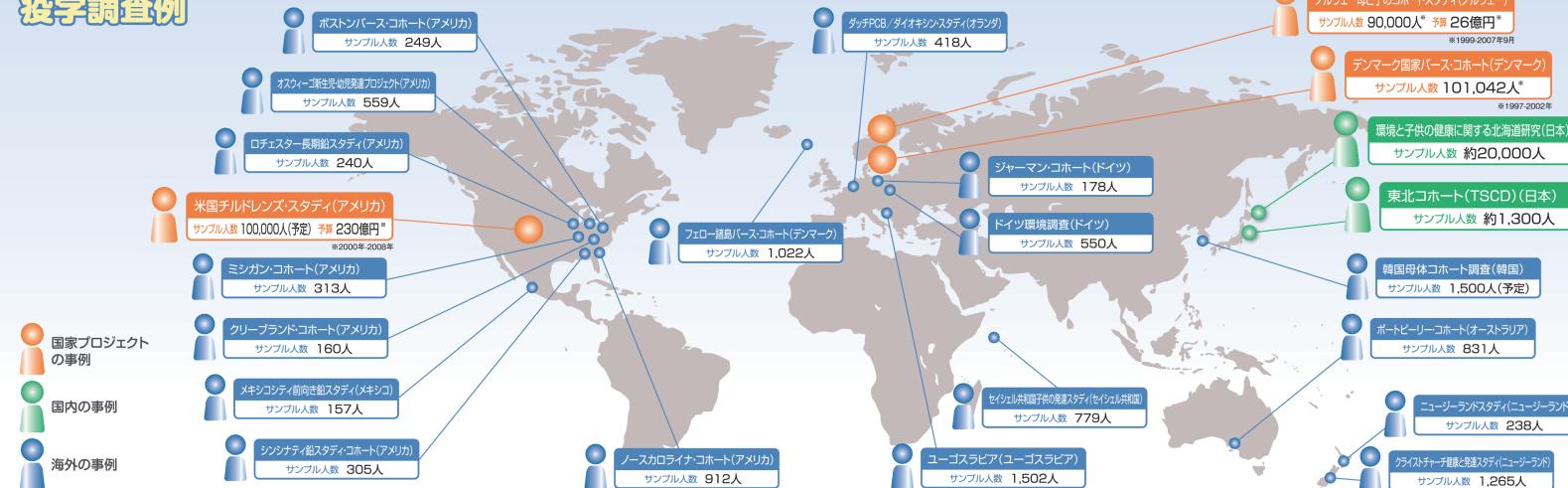
上記以外に報告されていること

- 免疫系疾患（アレルギー、アトピーなど）の増加
- 代謝・内分泌系異常（小児肥満、小児糖尿病など）の増加
- 生殖異常（不妊、流産、男児の出生率の低下など）の増加
- 神経系異常（自閉症、キレイやすい子、LD（学習困難）など）の増加

世界では、今…

- 1997年、先進8カ国の参加による子どもの環境保健に関する環境大臣会合が開催され、子どもの環境保健を最優先事項とする「マイアミ宣言」が採択されました。
- これを受けてアメリカでは、当時のクリントン大統領により「環境保健リスクと安全リスクに対する小児の保護」が発令され、欧州では、健康影響や健康ハザードから子どもを守るために必要な研究や施策を優先事項とすることが明確化されました。
- 現在、アメリカ、ノルウェー、デンマーク等では、子どもと環境をテーマとした大規模な国家プロジェクトが進められています。

子どもと環境に着目した主要な疫学調査例



「子どもの健康と環境に関する全国調査」の概要

10万人が参加登録

妊娠健診時

- ・インフォームドコンセント
- ・質問票調査
- ・妊娠血液、尿の採取
- ・環境試料の採取

出産時

- ・出生児の健康状態を確認
- ・臍帯血の採取
- ・父親血液の採取

1ヶ月時

- ・母乳の採取

6ヶ月から13歳に達するまで

- ・質問票調査（半年ごと）
- ・面接調査（数年ごと）
- ・環境試料の採取



長期保存



化学物質等の測定



分析結果



統計学的解析

こどもの成長発達に影響を与える環境要因を解明

2007年度

小児環境保健疫学
調査に関する
検討会立ち上げ

●小児環境保健に関する疫学
調査の概要とりまとめ

2008～2009年度

ワーキンググループ
立ち上げ
パイロット調査
の実施

●調査手法の検討

2010年度

本格調査開始
子どもの健康と
環境に関する
全国調査

●10万人参加登録

2025年度

中間とりまとめ
子どもの健康に
影響を与える
環境要因の解明

●海外の調査との連携